

「学校授戒会におもう」

大本山總持寺布教教化部参禅室長 花和 浩明

5月になると大本山總持寺は新緑の季節を迎えます。広い境内を覆うたくさんの木々たちの緑が折り重なり、そのすべてが瑞々しく新鮮です。私はそこにいるだけで、身も心もリフレッシュされるような気になります。実際に木々が発する微量の物質や香りが人の健康を増進することが、科学的にも証明されています。私はこの新緑の時期がとても好きです。心がとても前向きになることができるからです。

ところで毎年本山では5月の初めに学校授戒会が行われます。総持学園である鶴見大学附属高等学校の新3年生が、本山で2日間にわたって修行し、学園主でもある禅師さまから親しく戒法を授けられます。本山では4月に檀信徒が参加する報恩大授戒会が行われ、7日間にわたって授戒会の修行をします。その内容をできるだけ踏襲し、日程を短縮したのが学校授戒会です。

参加する学生たちはあらかじめ学校で、戒の意味や歴史について本山の説戒師さまから教授を受けます。戒とはお釈迦さまが定めた、仏弟子として守るべき教えで、戒が身につけていけば、決して人生に迷うことはないといわれます。戒は、戒法として脈々と受け継がれ、授戒の師となる戒師さまに至ります。本山では禅師さまが戒師さまをおつとめなさいます。

学校授戒会の儀式は、御開山瑩山禅師のお膝下である本山の大祖堂で行われます。学生たちは、懺悔道場のなかで、これまでの人生や生活を心から反省し、禅師さまにこれまでの悪い心や行いをあずかっていただき、それを消し去っていただきます。そして、本道場において、お釈迦さまから伝わる戒法を授けられ、正しい仏弟子となった証に二文字の戒名が記されたお血脈をいただくのです。

この2日間は、長い人生のなかの一瞬の出来事かもしれませんが、仏教的生き方の指針である戒法を学び、人生を迷わずまっすぐに歩んでゆくためにはとても貴重な2日間となります。また仏弟子として、ともに人生を歩む尊い仲間を得ることができるのもとてもありがたいことです。

わたしたちは、心の持ち方によって、年齢にかかわらずいつでも心をリフレッシュすることができます。若さと希望をもって授戒会に臨む学生たちと同じように、この新緑の季節、心新たに前向きに生きてみるのはいかがでしょうか。